



## コロナ禍にあっても「粘り強く取り組む心」が育っています

「Revolution~歴史に僕らの革命を起こせ~」のスローガンのもと、生徒会役員始め全校生徒が一丸となって取り組んだ甲斐あって、9月末に行われた墨坂祭は大きな成果を残して閉幕しましたが、墨坂祭までの道のりは、決して平坦なものではなく、そもそも開催できるかどうかも分からないところからの出発でした。生徒の皆さん、とりわけ3年生にとっては、不安だらけのスタートだったと思います。しかし、生徒会の役員を中心に生徒のみなさんは、墨坂祭に向けて、陰ひなたなく誠実に取り組み、準備を進めました。成功裡に終えた墨坂祭の裏には、多くの生徒の努力がありました。その中で、表舞台にあまり表出しないものの、ひたむきに取り組む「粘り強く取り組む心」が育ってきていることを感じます。



【月目標を書く生徒会役員】

### 【文化祭二日目早朝からの校庭整備】

朝6:50、小雨の校庭で、険しい表情で空を見上げる体育委員長がいました。7時を回ると体育委員の数が増え、盛り土から一輪車で土を運び、校庭に敷いていきます。職員も交ざり、協力し合いながら作業を進めました。「ゲームフェスタを何とか実施したい」という思いに支えられたものでした。コンディショニング的に厳しい中でしたが、種目の順番を変えて何とか実施に漕ぎつけ、当日まで準備を進めてきた体育委員の思いが報われました。

今年度は、例年通りにいかないことが多いですが、様々な場面で生徒たちが頑張ってくれている姿があります。結果や成果は、あとになってみないとわからないものですが、「結果が全てだとは思わずに、ベストを尽くすことの大切さ」を生徒の姿から学ばせてもらっています。



【左、中：小雨の中、トラックを整備する体育委員と職員、右：“ボランティアの日”前日の呼びかけ風景】

## 教育実習生の先生も頑張っています！



本校の卒業生1名が、10月26日～11月16日までの3週間、教育実習を行っています。先週からは、実際に授業をするようになりました。久しぶりに母校に戻って感じていることを尋ねてみました。

本校生徒の印象は「私たちの頃よりも明るくて落ち着いている印象」だそうです。「授業中、生徒のみなさんが、『わかった』『(知識が)つながった』と言ってくれた時が嬉しい。その時、一生懸命授業の準備をしてよかったなあと思います」と笑顔で語ってくれました。

## 後期人権学習を行っています

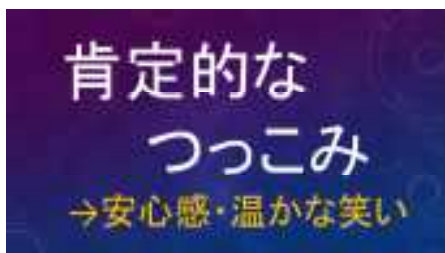
【校長先生のお話】 < 10月29日（木）テレビ放送にて >

昨日、後期人権教育月間導入集会。自分の考えを意欲的に発表する姿、25名くらいの発言がありましたね。11月は集中して人権について、昨日の集会での説明にもあったように特に部落差別の不当性、そしてその解消について、学級での授業や学年での講演会等で現実の社会にある出来事や事象、その歴史等から考えていきます。日本や世界の社会でのそうした人権を侵害している出来事は、決して遠いところで起こっていることではなく、自分たちの身近でも起こっていることであること、それは今のコロナ差別と言うことでも感じていることでしょう。



だからこそ、自分の身の回りです。そうです。まずは隣の友だち、班、クラス、学年の友だちです。「他人事ではなく、自分は差別はしない」ということを、昨日の集会でも何人もの友だちが意見を述べていました。自分の生活の中で、常に自分は友だちに悲しい思いをさせてはいないか、クラスや学年の中で悲しい思いをしている人はいないか、自分だけが良ければそれでいいのか、みんなが笑顔で生活できるために、自分は、クラスはどうあるべきなのか等々を日々の生活の中で具体的に考えていって欲しいと思います。そこで今日は、みなさんに考えて欲しいことがあります。

【中略】 ～ 相手を否定しない肯定的な「つつこみ」が世間で高評価を受けている漫才師のお話と知らず知らずのうちに枠組みを決めて物事を見ている具体例のお話 ～



友だちとの関係においてもそのようなことってありませんか。あの人はこういう人だと決めつけてしまっていたけれど、ふとある時にこういう良さもあるんだと気づいたことないですか。そうした「ふとある時に」も勿論いいのですが、どうでしょうか。

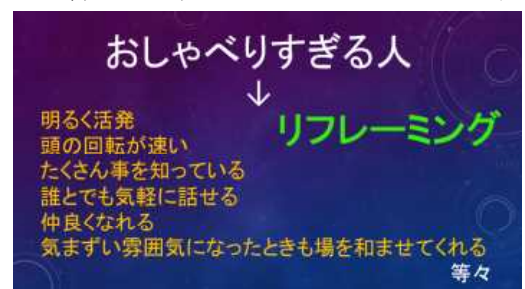
もっと積極的に友だちのそうした面を考えてみませんか。それには、否定ではなく積極的に肯定してみることで、つまり逆転の発想をしていくことが一つの方法かも知れません。例えば、夏休み

が半分にさしかかったときに「もう半分終わってしまった」と考えるより、「あと半分も残っている」と考えることができた方が、きっと幸せですね。

人間、ネガティブなマイナス思考よりポジティブでプラス思考であった方が、明るく楽しく生活できるはず。友だちを否定ばかりして、挙げ句の果てには嫌な言葉、例えば「うざい、きもい、死ぬ」なんていう嫌な言葉ばかり言っている人は、その時はすっかりしたような錯覚に陥っているだけで、きっと本当の気持ちよさや楽しさを味わっていないんでしょうね。

友だちとの関係においても、ぜひ、こうした逆転の発想、否定ではなく肯定的な見方を積極的に行ってみてはどうでしょうか。こういう逆転の発想、否定ではなく肯定的な見方をしていくことを「リフレーミング」と言います。

一つ、二つやってみましょう。例えば、「いい加減な人」をリフレーミングしてみてください。～間～ リフレーミングすると「大らかな人」「物事にこだわらない人」「寛大な人」という見方ができますね。もう一つ、「怒りっぽい人」をリフレーミングしてください。～間～ 「感受性豊か」「情熱的」「正義感が強い」あたりの見方が出てきたことでしょう。



このような感じでクラスの友だちとやってみてください。隣の人とペアになって、まず自分の短所や欠点の一つ相手に伝えます。伝えられた人はその人が語った短所をリフレーミングして、肯定的なメッセージを返してやりましょう。それが終わったら交代してやってみましょう。自分の中で友だちの見方をリフレーミングして、見方を変え肯定していくことで、新たな友だち関係を築ききっかけにしてみてください。

否定ではなく肯定してみることで、逆転の発想等、今のコロナ禍でも言える事ですね。コロナでいろんな制限やストレスがあるのも事実だけど、「コロナ禍だからこそ、できること、できたこと、気づかされたこと」を積極的に捉えて、前を向いて進んでいきましょうね。